

コロナで、大名に遊びに行きたくても行けないからとても悲しいです...

尾道大名訪問プラン

皆様いかがお過ごしでしょうか？まだまだ規制はありますが、以前よりは外出の機会も増えてきているのではないのでしょうか？感染対策をしてお待ちしておりますので、「大名」へぜひお越しください。

第2弾

新尾道駅 → 「大名」訪問 → 尾道駅へ → 商店街をぶらり散歩 → 千光寺ロープウェイ → 千光寺 → 文学の小路を歩いて「大名」へもう一度

今回は大名のある街、広島県尾道市をご紹介します。尾道といえば「文学の街」「坂の街」「サイクリングの街」「ラーメンの街」と言われていますが、外せない観光名所の一つ「千光寺公園」を紹介していきたいと思います。と、その前に商店街をぶら〜り

さあ散歩〜商店街!



鳥谷のお気に入り1



鳥谷のお気に入り2



鳥谷のお気に入り3



鳥谷のお気に入り4



鳥谷のお気に入り4

ととあん

純国産の本わらび粉100%の本わらび餅を、自分で挽いたきなこで食べられる甘味処です。



桂馬蒲鉾商店

創業百余年、厳選した瀬戸内の新鮮な生魚を毎朝さばき、昔ながらの化学調味料・保存料無添加の製法を守っている本格蒲鉾屋さんです。今回は「柿天」「ごぼう天」!



マリオンクレープ

生地がパリッとしていて、ボリュームたっぷり! だけどクリームが美味しくてペロッと食べられるクレープです。今回は、いちごスペシャル!



大和湯

100年前からある銭湯が、まさかの「まち中華」に変貌。本格的な小籠包が食べられます。今回は、ちやいます!



茶房こもん

千光寺に行く前に、ちょっと腹ごしらえ...1977年より続くワッフル専門店。アツアツサクサクのワッフルに冷たいアイスがたまらない。今回は、木苺とクリームチーズのアイスクリーム。



ロープウェイに乗って、目的地へ



千光寺公園頂上展望台「PEAK」

暑い日でしたが、スロープを登ると絶景と気持ちのいい風が吹いていました。



落ちたらどうする?

千光寺の歴史

大宝山権現院千光寺は尾道港を一望する大宝山の中腹にあり、平安時代の始め大同元年に、開基されました。後に、多田満仲公が再び繁栄させたといわれています。尾道市街と尾道水道、瀬戸内海の風景を一望できるお寺です。

千光寺への道 頂上からゆっくり降りていき、千光寺へ。その間の道のりから尾道の絶景が広がります。

貴子のオススメ絶景ポイント



百八煩惱除大念珠



お堂の正面には桜木で造られた百八煩惱除大念珠が下げてあり、幸せを念じながらゆっくり引くと珠が上から落ちて「カチカチ」と音がします。この音で苦しみの根源である煩惱を打ち消して、観音様の御守護が頂けると言われています。

ちなみに、桜の時期に訪れると、公園内の満開の桜を一望できますよ。沢山歩いた後は再度大名で話に華を咲かせましょう。

鐘楼



「時の鐘」として、名高い千光寺の鐘楼。元禄初年より、現在は18時に時を伝えています。

大名一同、貴方様のお越しを心よりお待ちしております。

今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。

件名: ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報はホームページ <https://daimyou.com/>

広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp

TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

有限会社

大名

届けますっ! 大和魂 2022年8月 Vol.49

经营理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

こんにちは。中堀明美です。暑い日が続いておりますが如何お過ごしでしょうか? 夏休みに入ってから子供達は暑くて外に出る事も嫌がり、家でゴロゴロしております。外に出たがりませんが、お盆になると必ず家族揃って一緒にお墓参りに行きます。



お盆の起源

釈迦(北インドの人物で、歴史上に実在した仏陀、仏教の開祖)の弟子である目連は神通力で亡き母が地獄で逆さ吊りの刑をうけていることを知ります。なんとかして母を助けたいと、釈迦に相談します。釈迦は「夏の修行が終った旧暦7月15日に僧侶を招き、多くの供物をささげて供養すれば母を救うことができるであろう」と教えました。そのとおりに実践したところ母親は地獄の苦しみから救われ、極楽往生を遂げられたとされています。



日本ではお盆が始まったのは、606年に推古天皇十四年七月十五日齋会」という行事を行ったからだといわれています。江戸時代以前は、お盆は貴族や武士、僧侶などの上流階級の行事でした。しかし、江戸時代になるとお盆の風習が庶民の間にも広がります。その理由は「ロウソクの普及」にあるといわれています。仏壇や提灯に欠かせないロウソクが大量生産で安価に取得できるようになったことで、全国に広がったそうです。御先祖様を家にお迎えし、感謝を伝え、ご冥福をお祈りし、霊を供養します。お盆は、宗教・宗派や地域によって独自の発展を見せ、現在の姿に至ります。



- 1日... 釜蓋朔日。あの世の門が開く。
- 7日... 七日盆お墓の掃除。または11日にお墓の掃除。
- 12日... 花、お団子、お供え物を買う。
- 13日... 迎え火。先祖の霊が迷わないよう、麻幹(あさの皮をはぎとった茎)をほうろくの皿で焼き、あん団子(お迎え団子)をお供えする。迎え盆。*精霊馬キュウリ、ナスとウモロコシの髭で馬と牛を作ります。
- 14日... 迎え入れた霊の供養。おはぎを供える。
- 15日... 迎え入れた霊の供養。素麺を供える。先祖様が口にしやすいようにというねぎらいの意味と、「子孫が末永く(長く)繁栄しますように」という意味が込められています。
- 16日... 送り盆。手土産として白団子(送り団子)をお供えし、夕方にはおがらを焚いて送り火で送る。



しょうりょうま *精霊馬

精霊馬はご先祖様の霊が行き来する際に使う乗り物です。割り箸や竹串、楊枝、マッチ棒などを使い、馬や牛の足を付けます。精霊棚を整え、お墓参りをし、夕方には迎え火をする。来る時はキュウリの馬で早く到着し、帰る時はナスの牛でゆっくり帰っていただくという意味が込められています。



中堀家では、親戚一同集まってお墓参りをし、お仏壇に手を合わせます。ご先祖様に見守って頂いているお陰で元気で過ごせていると感謝し、少し豪華なお飯をお仏壇の前で談笑しながら食べます。ですがこの数年は、コロナで集まれていませんでした。親戚で集まっていたことが、これほど貴重に感じるとは思いもしませんでした。今年こそは、普通のお盆が過ごせますように...



こんにちは、島谷貴子です。今号は、「桃形兜」、
「鳥帽子形兜」について語らせて頂きます。

ももなりかすと



語ります 大和魂

兜の変遷

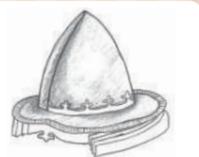
古墳時代 ▶ 平安時代 ▶ 鎌倉時代 ▶ 室町時代～南北朝時代 ▶ 室町後期～安土桃山 ▶ 戦国時代

実戦用に大量生産?

ヨーロッパのアジア進出が始まり、天文頃(1540年～)から日本は、ポルトガルやスペイン人と貿易が始まりました。日本に鉄砲をもたらしたポルトガルの商人は、日本の武将にヨーロッパ製の甲冑を献上しました。その南蛮兜の影響を受けたものが、「桃形兜」と言われています。そして形が、桃の実に似ていることから「桃形」と呼ばれ、室町時代後期から「頭成兜」と共に流行しました。製作にかかる手間が少なかった為、主に下級兵士の使用する簡易兜として普及していききましたが、兜特有の機能性(平滑な表面によって、刀剣・槍の攻撃を反らし、ダメージを軽減する)や、形状の美しさから、上級の戦国大名でも愛用する者が現れるようになっていきました。戦国時代、身分を問わず多くの武士が使用したと言われています。特徴的な立物を付けたり、金箔を押すなど上級武士は自らの兜に付加価値をつけていきました。

豊臣秀吉、立花忠茂(金箔押桃形兜)、鍋島勝茂(青漆塗桃形兜)らも、その武将です。

南蛮兜



特徴 椎の実形で、前後正中に鍔があり、鉢の廻りに帽子のような鍔がついているもの。

桃形兜



特殊な場合を除き、ほとんど四枚の鉄板で作られている。

水牛兜



武将同士で兜の交換?

豊臣秀吉の家臣として数々の武功を上げた福島正則と黒田長政。黒田長政は、特徴的な脇立付兜を非常に好み、様々な合戦で着用していたと言われています。そして当主のみではなく、その重臣達も好んで用いていたとも言われています。一方武勇に長けた猛将福島正則でしたが、やや短気なところがあり、朝鮮出兵に関するいざこざで、黒田長政と仲違いしてしまいます。その時の和解の証として、お互いの兜を交換し、福島正則が譲り受けた物が、「黒漆塗桃形大水牛脇立兜」です。和解や友情の証しとして刀や兜を交換することは珍しくはなかったようです。

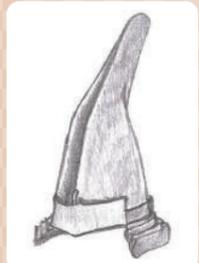
福島正則と黒田長政

実戦用に大量生産2

1590年以降、自己の好みを表現する「変わり兜」が全国的に流行していきました。頭の形にフィットする自然な形の帽子や冠の形も生まれました。上部を長くし、立*鳥帽子の形に似せた「鳥帽子形兜」もその一つです。簡易な作りではあるが、機能性に優れている為、流行していきました。

*鳥帽子とは、平安時代から続く和装の礼服用の際に成人男子が被った帽子のこと。

鳥帽子兜

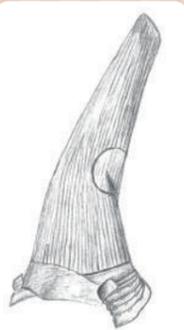


特徴 四～六枚の鉄板で作られている。

鬼神の兜

日蓮宗の信者であった加藤清正は、日蓮宗の開祖・日蓮が使っていた蛇の目家紋を使用した「蛇の目紋長鳥帽子形兜」や「銀箔押長鳥帽子形張懸兜」等、長鳥帽子を好んで着用していたと言われています。朝鮮出兵の際にも長鳥帽子兜を着用し、190cmの大柄で、まるで鬼神のようだったと伝えられています。が、実際は160cmほどしかなかったとも・・・大柄に見せる為に着用していたのではないかとされています。

鬼神



金銀に輝き、長さのある兜。戦場で、敵に自分の居場所を知らせてしまう可能性もありながら、自分の存在をアピールしていたことに驚きました。武術や戦術にも相当な、自信があったからこそだと思います。

上杉謙信(金箔押風折鳥帽子形兜)、前田利家(鬘斗鳥帽子形兜)等の有名武将も戦場で被っていました。

次回はさらに変わった、変わり兜を語らせて頂きます。

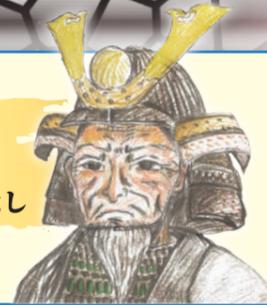
ハナエモンのタイムスリップ!

今年「〜名人」にタイムスリップしていこうと思います。今号は弓名人のこの方にタイムスリップ!

93歳まで合戦で活躍 大島光義

おおしまみつよし

1508-1604年



60歳で信長の家来に

美濃国、大島光宗の子として生まれます。父が戦死したことで、10歳で戦争孤児となり、親戚に預けられることになりました。お家再興を願い、武芸に励みます。13歳で初めて合戦に参加すると敵将を弓で討ち取り、翌年(14歳)の合戦でも弓で活躍をしています。斎藤家の家臣となっていたのですが、1567年(60歳)、信長の侵攻で斎藤家は滅んでしまいます。弓名人として知られていた光義は、弓大将として、信長に仕えることとなります。



雲を突き抜ける活躍じゃっ! by信長

1570年、織田家が浅井・浅倉家と戦った坂本の戦い。織田家の中でも多数の武将が討ち死にするなど壮絶な合戦だった中、63歳の光義はまたしても大活躍。戦後、信長から

「雲を穿つような働きじゃ! 名前を雲八に改めよ!

と称賛され、大島雲八と改名をします。



80年の時を超えて、父の領地を

信長の死後、丹羽長秀、羽柴秀吉に仕える中、戦功を重ね、ついに1598年(91歳)、1万1200石の大名になりました。秀吉の死後、1600年(93歳)、関ヶ原の戦いに東軍(徳川方)として参加した光義と長男(光成)。対して、次男(光政)・三男(光俊)は西軍(石田方)に・・・。東軍が勝利し活躍を認められた光義親子、幸運にも次男・三男も許され、更には1万8000石に加増されます。故郷の領地を加増され、父の戦死により奪われた領地を取り戻すことが出来ました。



弓名人としての逸話として、木の陰に隠れた敵を木ごと射抜いたそうです。また八坂の塔(五重塔)の5階の窓に10本中10本、矢を射こんだそうで丹羽家資料に「百発百中」と残されているそうです。平均寿命が40歳代だった戦国時代に、93歳まで第一線で活躍出来たのはどんな理由があったのでしょうか。関ヶ原の合戦後、豊後国(大分県)の5万石の城主に推挙されたのを断った光義。故郷の領地を取り戻してやるという夢の実現の為に、戦国時代に大往生を遂げることが出来たのかもしれないね。